

NPO法人 表浜ネットワーク

活動分野: 環境保全 所在地: 豊橋市



災害時の避難路にもなる

野生動物と人との共生をめざし、 子ども達に豊かな未来をつなぐ

愛知県渥美半島の表浜海岸は、長さ40kmの海岸線と切り立った崖が連なる自然豊かな海岸です。当法人は表浜を拠点にウミガメ調査や環境教育、漂着物講座、森林整備、砂浜保全などを行い、野生動物と人間が共存できる生態系豊かな社会をめざして活動しています。



ウミガメが産卵しやすい砂浜にするための堆砂垣作り

MESSAGE

NPO法人 表浜ネットワーク

田中 美奈子さん

頂いた寄付金で森林整備に必要な道具や資材などを購入させて頂きました。活動では自分たちの作ったものが森の保全と人命救助につながる満足感を体感できます。貴社でも参加をご検討頂けましたら幸いです。



横断歩道付近に設置予定のセンサーライト

豊田市交通安全防犯課

活動分野: 安全・安心 所在地: 豊田市

“県内交通死亡事故 全国ワースト1位”返上を 豊田市から!

恩返しポイントの寄付金を、豊田市の「歩行者保護モデルカー活動」に役立てていただいています。夜間でも歩行者を見つけやすくするためのセンサーライトを、豊田市内の横断歩道付近に設置予定です。また豊田市交通安全市民会議※のイベントなどの啓発活動中に、交通安全を促すマスコットが配布されます。マスコット作りには社内有志がボランティアで参加しています。

※交通安全を推進する市民団体が加盟し、連携して交通事故死根絶を目指す会議



交通安全のマスコット

ボランティアに参加してみませんか?

ボランティア募集情報・講演会情報を掲載中です。ぜひご利用ください!!

■恩返し活動HP

<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/25/Pages/AG/Ongaeshi/Ongaeshi.aspx>
T-Wave → 恩返し活動&Human Relations → 恩返し活動



■スマイルゆうネット

<http://genki365.net/gnkt/customer/toyotagr/index.php>

スマイルゆうネット

チェック!

※IDとPWが無くてもお申し込み可能です。
ご不明な点はトヨタボランティアセンターまでお問い合わせください



hellō volunteer

はー/ぽんていぶ

トヨタボランティアセンター情報誌



矢作川の竹林整備ボランティア



行こう! 東北へ

トヨタボランティアセンターでは、
従業員（家族・OB/OGを含む）を対象に、
地域を取り巻く様々な課題の解決につながるような
自主活動を企画し、実施しています。

矢作川の竹林整備ボランティア

日にち：2016年4月～
場所：矢作川河川敷（愛知県豊田市）

のべ **3,589** 名参加

“矢作川に見える河川敷”へ トヨタのパワーを結集し放置竹林を整備

豊田市内を流れる矢作川の川辺には江戸時代から護岸のために竹が植えられ、さまざまな用途に使われてきました。しかし近年は利用の機会も少なくなり、放置され生い茂った竹林の壁は、景観や環境面で様々な問題を引き起こしていました。

当社は、2016年より竹林整備ボランティア活動を開始。人間の都合でバランスが崩れてしまった自然に対し、生き物が住みやすい環境と河川が見える景観を50年ぶりに取り戻す挑戦が始まりました。国土交通省や豊田市の支援を受けながら、当社のパワーを結集し「2年間で約1.2kmの竹林整備」という目標を見事やり切ることができ“矢作川が見える河川敷”へと姿を変えつつあります。皆さんも近くを通りかかった時には是非その変化をご覧ください。

現在は2019年9月に開催される「ラグビーワールドカップ2019」の際に、竹林が美しく見えるとされる傘を差しながらも散策できるくらいの密集度を意識した整備を行っています。また、竹チップや竹炭の試作など伐採後の竹の利活用に取り組むなど、経済性と環境保全を両立した持続可能な活動を目指しています。



地域の声

愛知県立豊田東高等学校 教諭 **都築 雄一**さん
**力を合わせて自然環境の
好循環を生み出す**

豊田東高校は、川を挟んで反対側の左岸で環境教育活動に取り組んでいます。竹林の伐採は景観の向上はもちろんのこと、自然環境の好循環を生み出すことが期待できる素晴らしい活動です。みんなが力を合わせれば環境を変えていける好事例として、生徒たちに伝えています。



2016年4月

2017年11月



放置され、埋もれた散策路

● 2019年度 活動スケジュール（変更になる場合があります）

日 程	活動内容
5月中旬	募集終了 ● 矢作川右岸沿い散策路復活 第1ステージ
9月中旬	今後募集予定 ● 竹林整備+グリーン活動（当社以外の方々も一緒に参加） ● 矢作川右岸沿い散策路復活 第2ステージ
10～11月	今後募集予定 ● 竹林間伐 ● 竹チップ・竹炭の試作



中上仮設住宅地での排水溝の整備



スリーピークスイナリーでのブドウの枝切り

参加者の声（第3クール） 執行役員 村上 晃彦さん

今回の経験を多くの人に伝えていきたい

被災後に家業を再建された農家のお手伝いをさせて頂きました。「忘れずに通い続けてくれてありがとう」との言葉を皆さんから頂き、寄り添い続けることの大切さを改めて感じました。「もう来てくれなくてもいいですよ」と言われるまでこの活動を続けて欲しいし、続けたいと心から思います。陸前高田と大船渡の語り部の方々には「語り継ぐことが自分の使命」と、本来思い出さくないであろう辛い経験を私たちに語って下さいました。素晴らしい機会を頂き、ありがとうございました。



精油を搾油するための柿の実拾い

2019年も4月ごろに**ボランティアの募集**を開始します。**T-Wave**をお見逃しなく！



第5クール 2018年11月23日（金・祝）～25日（日）



陸前高田応援マラソン大会での給水所係

林の下農園でのリンゴの収穫

行こう！東北へ

トヨタグループ・関連企業16社による
東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動

日にち：2011年6月～（通算62回）
場所：岩手県気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）

のべ **1,087** 名（2018年は40名）参加

被災地との心のつながりを大切にしながら 8年間復興支援活動を継続

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の広い範囲に大きな被害を与えました。震災3カ月後から、トヨタグループ・関係会社16社のボランティアは岩手県気仙地区で復興支援活動を開始。震災後2年間は愛知県からバスで片道約14時間をかけて移動し、側溝の泥出しや家屋の片づけ、遺留品捜索等を中心に活動しました。被災地災害ボランティアセンターが閉鎖され、多くの企業や団体がボランティア活動から撤退する中でも、私たちは仮設住宅での交流や地域活性化のための産業復興支援、お祭りのお手伝い、工作教室など活動の幅を広げて、現在も活動を継続しています。実際に現地に足を運ぶことで、まだまだ復興が進んでいない部分もあることに気付かされます。毎年私たちが来ることを楽しみにしてくださっている方々も大勢いらっしゃいます。今までのご縁や被災地の方々との心のつながりを大切にしながら、今後も活動を継続していきます。

白川郷茅刈りボランティア

日にち:2018年10月27日(土)
場所:トヨタ白川郷自然学校 敷地内茅場(岐阜県大野郡白川村) **26**名参加

茅場を楽しく情報発信のできる場として活用

2008年以来、トヨタ白川郷自然学校内の合掌家屋(旧下山家)の屋根材自給活動を続けてきましたが、今回、「茅場を楽しく情報発信のできる場としての新しい活用を考えたい」という自然学校側からの提案により、迷路を作りました。また、屋根材に最適な小茅を増やす取り組みをスタート。屋根材の品質の更なる向上につなげていきたいです。



僕の前に迷路はない、僕の後ろに迷路はできる



みんなで一斉に

ボランティアより

ひさのぶ
MSZ 足立 寿伸さん

活動を継続することで得られる
ボランティアとしての満足感

長年放置されてきた茅場が元の状態になるには時間がかかりますが、年々少しずつ茅が増えてきていると思います。春と秋の整備活動を丁寧にやってきた賜物であり、自分も微力ながら役に立っていることが実感できました。



TRY FOR ALL ラグビー運営ボランティア

日にち:2018年6月23日(土)・9月1日(土)
場所:スカイホール豊田・豊田市駅・豊田スタジアム(愛知県豊田市) **44**名参加

市民一丸となってTRY FOR ALL

「ラグビーワールドカップ2019」開催に向け、市民一丸となってイベントを盛り上げようと市が独自に立ち上げた「TRY FOR ALLスタッフ」への活動参加を従業員の皆さんへ呼びかけました。回を重ねるごとに参加する社員ボランティアも増加傾向にあり、ワールドカップに向けて気運が高まっています。



ゴールにうまく入るかな



混雑する会場の誘導案内

ボランティアより

まさのり
総務部 芝 正憲さん

人の役に立てる
嬉しさを実感

地元豊田市でも開催される「ラグビーワールドカップ2019」を盛り上げていきたいと、活動に参加しました。主に来場者の誘導を行いました。お疲れ様」と声をかけて頂くなど、人の役に立てる嬉しさを感じました。ワールドカップ本番でも何かできる活動があれば参加したいと思います。



笑顔で元気にお迎え

お茶摘みボランティア

日にち:2018年5月1日(火)
場所:豊田市内茶畑(愛知県豊田市豊栄町・御船町) **27**名参加

お茶摘み体験で楽しく気軽に地域貢献

豊田市は県内有数の茶どころ。しかし高齢化が進んでお茶の摘み手も不足していることから、当社がボランティアとして協力するようになり、今年で2年目を迎えました。お茶摘みはボランティアの経験がなくても気軽に参加できます。従業員は家族と一緒に参加し、地元の方から料理のレシピやおいしいお茶のいれ方などを教えて頂き、楽しく活動しました。



ご近所の方も一緒に



マッチデープログラム配布

ボランティアより

はるよし
パワートレーン統括部 吉本 治好さん

華やかなイベントを
陰で支える重要な存在

「名古屋グランパス」のボランティアに参加し、華やかなイベントの影には多くの人々の存在があることを改めて実感しました。サポーターの皆さんから声をかけて頂き、また子どもたちの喜ぶ顔を見ると、参加してよかったなと思います。これからも多くのボランティアに参加し、見識を広めていきたいですね。



クリーンステーション



夢中になって摘み取りました



籠に新芽がいっぱい



一芯二葉の摘み方

ボランティアより

上郷工場・下山工場工務部 八木 未帆さん
お茶摘み体験で知るとよた茶のおいしさ

自然が好きでお茶摘み体験に興味がありました。鮮やかな緑に覆われた茶畑はとても美しく、休憩時のおもてなしにも感激!お土産に頂いたとよた茶はとてもおいしかったです。



受入先より

いしかわ製茶(豊田市茶業組合) 石川 龍樹さん
ボランティアに助けて頂いたお茶摘み

近年は人集めに苦心していただけに大変助かりました。丁寧に摘んで頂いたお茶は丹精込めて仕上げ、品評会に出品します。とよた茶のおいしさを体感して頂ける良い機会となりました。



いしかわ製茶の皆さん
コメントは石川龍樹さん(右端)

西日本豪雨被災地(倉敷市真備町)におけるTDRS※活動報告

日にち:12月8日(土)
場所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

48名受講



講演者:TDRSメンバー 伊藤さん



講演者:佐賀 元副センター長

災害ボランティアコーディネーターとして活躍

「平成30年7月豪雨災害における倉敷市社協の取り組みと今後の展開」と題し、最大の被災地の一つの倉敷市災害ボランティアセンター佐賀雅宏元副センター長が講演。続いてTDRSメンバーの4人が猛暑の中での活動を報告。佐賀さんから「長期の継続的な支援を頂けたのは非常に助かった。被災者を第一に考えた行動で対応して頂きありがたかった」と講評を頂きました。

協力先より 豊田市社会福祉協議会 主事 稲吉 龍太郎さん

トヨタのノウハウを活かして被災地を復興支援

日常業務の中で培ったツールを使った、被災者に寄り添った活動が印象的でした。豊田市が被災したときには、お互いに力を合わせて復興に取り組みましょう。



※TDRS:Toyota Disaster Recovery Support (トヨタ災害復旧支援)

トヨタバリアフリー講座

第16回 聴覚障がいのある人たちが自分らしく生きるために

日にち:2018年11月17日(土) 場所:トヨタ会館(愛知県豊田市)
講師:第一部 トヨタ記念病院 耳鼻咽喉科部長 古田 敏章氏
第二部 東京手話通訳等派遣センター 養成・研修課課長 飛山 将紀氏

60名受講



トヨタ記念病院・古田先生のご講演

聴覚障がいへの理解を深め、行動する



講師の手話をサポートするボランティアさん

「耳と聞こえの話」を通して、聴覚障がいや聞こえの役割について理解を深めました。聴覚障がいを持つ方の日常的な困りごとや接し方の工夫、筆談やジェスチャー、手話のポイントなどについて学び、その立場を体験したことで、私たち一人ひとりが何をすべきなのかを考える良い機会となりました。

受講者より

東富士研究所 管理部 佐藤 正樹さん

まわりにもっと手話を広めていきたい

私自身、聴覚障がいを抱えています。今回、参加者が多く、社内での手話に対する関心の高さを知ることができて大変嬉しく思いました。個人的には手話養成講座の講師の資格を取得したので、これからもっとたくさんの方に手話を広めていきたいです。



星城大学・坂井先生のご講演

第17回 精神障がい 共に考えよう!メンタルヘルス 心の健康

日にち:2018年12月8日(土) 場所:トヨタ会館(愛知県豊田市)
講師:第一部 星城大学リハビリテーション学部 教授 坂井 一也氏
第二部 ハートフルシンガー 稲田 貴久氏
NPO法人名古屋サーティーン 代表 河合 俊光氏
(精神障がい者バレーボール団体)

89名受講

悩みの雨を遮る傘になって

精神疾患の患者数は全国で約400万人を数え、毎年約10万人が増加しています。精神疾患は誰にでも起こりえること。予防するには心の持ち方やものの見方を変えてみるのが大切です。心を病んだ人に対しては、「悩みの雨を遮る傘になってあげてほしい」という講師の方の言葉は、聴講者の皆さんの胸に響いていました。



ハートフルシンガー・稲田さんのライブ

受講者より 先進車両技術開発部 山田 佐江子さん

思い詰めないことが大切

精神疾患の人にとって“安心できる人”がいるのが大切という言葉が印象に残りました。自分も家族や職場の仲間にとって“安心できる人”でありたいです。失敗してもやり直せばいいと、まわりに伝えていきたいです。



ー 職場・社内サークルの活動報告 ー

ボランティアサークル、工場や拠点、部署ごとにおいても自主的にイベントを企画し、楽しみながらボランティア活動を行っています。

先進技術開発カンパニー 2018年新城ラリー 運営ボランティア

170名参加

日にち:2018年11月3日(土・祝)～4日(日) 場所:新城総合公園周辺および市内臨時駐車場(愛知県新城市)



チラシ配り

ラリーファン・ボランティアの裾野を拡大

「2018年新城ラリー」の運営に携わるボランティアを募り、車や観客の誘導、駐車料金の徴収、マップの配布などを行いました。ラリーを身近に感じながら共に盛り上げることで観客や選手、主催者との一体感が生まれ、地域社会に貢献する喜びを味わうことができました。今後もクルマづくりの先進カンパニーとして継続的なボランティア協力を行っていきます。



駐車場誘導



ボランティアより

技術管理部 山路 貢介さん

より良いクルマ社会の実現に貢献

職場の先輩に誘われ、ラリー観戦もできるなら軽い気持ちで参加。観客の皆さんがラリーを楽しんでいるのが嬉しく、今後もより良いクルマ社会の実現に貢献していきたいです。



受入先より

株式会社近畿日本ツーリスト中部 津支店 廣瀬 裕司さん

ボランティアが気づかせてくれた新たな視点

前年をはるかに上回る来場者数でしたが、ボランティアの皆様のおかげで無事に乗り切ることができました。お客様への対応やクルマの導線、設備面など私たちが気づかなかった点に気づかせて頂き、目からウロコの思いです。

ボランティアサークル「大型車運転友の会」

安全・安心な送迎で地域のイベントに貢献



送迎の様子

「長野オリンピック」での運転ボランティアを機に発足。地域イベントでの送迎バスの運転を中心に、主催者や参加者の皆さんと共にイベントを盛り上げられるよう心がけています。2018年10月には豊田市福祉協議会の推薦により、県知事感謝状を頂きました。これを励みにさらなる活動の充実を図っていきます。

活動依頼
募集中

バス・トラックの運転をお手伝いします

福祉施設や地域イベントなど、「大型車の運転を手伝ってほしい」とのご要望があれば、トヨタボランティアセンターまでご連絡ください。プロドライバーに負けない技能と思いやりの心でお手伝いさせていただきます。



メンバーより

「大型車運転友の会」

リーダー

山口 太一さん

乗客の安全を第一とした運行を

毎年、研修を実施し技能向上に励んでいます。研修で得た学びや気づきは、実践してはじめて活かされます。メンバー全員が日常の乗用車の運転から実践し、より安全・安心なバス運行ができるサークルを目指してまいります。



メンバー



感謝状